

男子校

巣鴨中学校

校長:堀内 不二夫

〒170-0012 東京都豊島区上池袋1-21-1 TEL (03) 3918-5311 (代)

アクセス:JR山手線「大塚駅」北口徒歩10分／JR山手線「池袋駅」東口徒歩15分／東武東上線「北池袋駅」東口徒歩10分



HPはコチラ

Information

◆学校説明会(要予約)

10月3日(土) 10:00～
10月31日(土) 10:00～
12月5日(土) 10:00～

※要申込
※各回とも授業参観可能
※体育館ギムナシオン

詳しくはホームページをご覧ください。

◆巣園祭 文化祭

9月19日(土)・20日(日)

◆巣鴨学園チャンネル

本校HPにて、●web説明会 ●学VIEW巣鴨学園を公開中です。
是非ご覧ください。

◎中止・変更もございますので必ず本校HPをご確認ください。

◆体育祭

9月24日(木)

MUFGスタジアム(国立競技場)



受験生・保護者の皆さんへ

巣鴨中学校では、先生や級友たちとの学校生活の中で、「がんばったからできた」「努力が実った」という達成感を味わっていくことを大切にしています。そのような経験を積み重ねて、自らの可能性を切り開いていきましょう。

百年の伝統が創る最先端のグローバル教育

巣鴨中学校は 同校にしかできないグローバル教育を確立し、刻々と変化し続けるグローバル社会で力強く活躍する「グローバル人材」の育成に努めています。

中2～高1の希望者対象に、第一線で活躍する英国人と6日間寝食を共にし、グループディスカッションやアクティビティを

行うSugamo Summer School。オーストラリアでプログラミングを学ぶとともに大自然を満喫する2週間のプログラムもあり、さらに2024年度からは高1～2の希望者対象のイギリス研修旅行、ハーバード・MIT、そしてニューヨークを体感しながら、「自信を付ける仕組み」や「社会で活躍するイメージ」の獲得を目指す、8日間のボストン研修を実施します。

高校1年生の3学期をイギリス、オーストラリア、カナダで過ごすターム留学や、本校が2018年にFriendship Agreementを結んだイギリスの名門クライストカレッジ・ブレコンへの長期留学など、伝統校だからこそできる最先端のグローバル教育を展開しています。留学を経てオックスフォード大学へ進学した生徒もいます。

多彩な学校行事

努力を通じて達成感を味わうことができる様々な学校行事を実施しています。大菩薩峠越え強歩大会、希望制の巣園流水泳学校・早朝寒稽古など体育系行事のほか、アカデミック＝フェスティバル・百人一首歌留多大会・書き初め大会・合唱コンクールなどがあり、それぞれの行事で生徒の個性が発揮されています。個々の能力にあわせて行っているのも、全員での体育系行事も安心して参加できます。

充実した新校舎

2016年にすべての施設が刷新され、伝統と最先端が融合した学習環境で、生徒たちはのびのびと学校生活を送っています。学校説明会では施設見学や授業見学もできるので、冷暖房完備の新しい体育館、グラウンド、図書館、プロジェクターやwifiを備えた教室などを是非ご覧下さい。

進路状況

東京大含む国立大103名(うち医学部21)。早稲田大45、慶應義塾大44、東京理科大91、など。

医学部志望者が多く、今年も医学部に88名が合格しています。



募集要項 (2027年度)				
	第1期	算数選抜	第2期	第3期
募集人員	80名	20名	100名	40名
出願期間 (予定)	1月10日(日)～ 1月31日(日)	1月10日(日)～ 1月31日(日)	1月10日(日)～ 2月1日(月)	1月10日(日)～ 2月3日(水)
試 験 日	2月1日(月)	2月1日(月)午後	2月2日(火)	2月4日(木)
試験科目	国語・算数 社会・理科	算数	国語・算数・社会・理科	
合格発表	試験日当日(Webで発表)			



特別企画

安田教育研究所 安田 理先生の

がっこう探訪



校長 堀内 不二夫



REPORT

多くの方は依然として巣鴨に硬派なイメージを持っているだろう。しっかり勉強をさせ、強歩大会や寒稽古といった伝統行事で心身を鍛えるというイメージだ。が近年は、特色ある国際教育で注目され、今年からは第一次産業を営む家で家業を手伝い、かつ宿泊するプログラムを始めるという。生徒の成長につながることにどんな学校である。



RESULT

心身を鍛える行事に友だちと共になんばり成長

巣鴨の2大行事の1つに今年、大きな変化があった。「大菩薩峠越え強歩大会」が熊の出没の影響で取り止めとなり、代わりに「東京湾岸強歩大会」を行った。夢の島公園陸上競技場を起点に東京ゲートブリッジを通過し、有明・お台場エリアへと向かう約20kmのコース。強歩大会は友だちとともに乗り越え、がんばる経験が何よりの達成感となる。臨機応変に対応して行事を切れ目なく実現することができるとは、行事を重視している先生の思いの表れであり、また、OBも協力を惜しまないからできている。

年明けに行う柔道と剣道の早朝寒稽古は希望制にもかかわらず、高2までは9割を超える生徒が参加、高3も今年は約70人が参加したという。豚汁を食べてから共通テスト会場へ向かったそうである。堀内不二夫校長は「巣鴨の行事には少し苦労する骨太の体験が必ず入っています。そのおかげで、生徒にはもう一段頑張るという精神力が育ちます」と変化を語る。

また、数々の行事は生徒の成長へのきっかけ作りでもある。国際教育部部長の丸谷貴紀先生は「今の子、特に男子はやる前から面倒くさい、興味ないなどとはなから敬遠しがちです。でも巣鴨では、海、山、国際……と多様な経験ができるのだから、「まずやってみなよ」と機会を提供したいのです。やってみると意外とわくわくしないだろうと……。興味がなかった生徒にこそ、その世界を知って、かつ味わってもらい、生徒の可能性を広げたいのです」と話します。

豊富な国際教育プログラム、入門向けの企画も

巣鴨には10を超す国際教育プログラムがある。イギリスの名門校イトンのサマースクールへの参加も復活、2週間のイギリス国内を縦断する研修旅行「巣鴨ビヨンド・ボーダーズ(SBB)」、イギリスの第一線で活躍する社会人を講師に招いての藝科での6日間の合宿「巣鴨サマースクール」など、どれも他校にはない充実したプログラムばかりだ。

アクティビティの要素もあるオーストラリア研修(中3)には100人もが参加する



RESEARCH

人気行事。また、校内で行う「巣鴨イングリッシュシャワー」は3日間英語漬けで過ごし、ネイティブスピーカーとゲームや会話を楽しむ入門企画。英語力関係なく、中1のほぼ全員が参加する。

小学校で英語が必修となった結果、どの学校でも英語好きと同じくらい英語嫌いも増えていると聴く。英語嫌いをまず減らす試みとして、英語でコミュニケーションをとる楽しさにふれるのが狙いだ。丸谷先生は「これまでのプログラムでは主としてトップ層の力を伸ばすことに力を入れてきました。大勢参加できるプログラムを増やし、中1・中2の間に英語に慣れて力をつけさせ、中3以上でより多くの生徒が国内外のプログラムにチャレンジして、すぐれたネイティブと触れることで視野を広げて国際感覚を身に付けることを意図しています」と話す。

ファームステイで自然・食・命の原点に触れる

今年から夏休みに行う「ファームステイ」(中2)は国内各地の農家、漁師の家などに民泊する3泊4日のプログラム。第1次産業を通じて自然・食・命の原点に触れる。宮城、福島、愛知などの計6コースで、農作業を手伝い、漁港の水揚げや市場のセリなどにも一緒に行き、それぞれの産業の関わりから物流にいたるまでを体験する。“お客さん”として見学するのではなく、土地で生きる人と寝起きを共にするのがポイントだ。

「都会で生活していると土にふれることがない。でも、人間は土から生えてくるものを食べて生きている。海から獲るものもそう。だから、第1次産業を軽視することなく、農水産物がどうやって自分たちの手元に届いているのかを経験を通して知ってほしい」と堀内校長。希望制だが95%が参加する予定で、事前学習を行い、文化祭で経験を発表した後、グループで訪問した地域の良さを生かす活性化プランを練る探究的な学びにつなげていく。

さらに、中3・高1で第2次産業、高2で第3次産業の現場に足を運び、産業や経済について実感をもって語ることができるようになる。興味・関心が生まれれば、キャリア教育にもなる。将来の職業や進路も産業全体を一通り見たうえで選んでほしいという狙いもある。

伝統的な行事にも、新しい国内外のプログラムにも共通するのが、生徒を成

長させる“しかけ”が工夫されている点だ。単に鍛える“スパルタ”ではないのだ。学校としても勇気がいるのだが、思い切って現場へ放り込み、現代っ子がチャレンジできる範囲の体験を自らの力でやり切る、それを意図している。

それが自立を促す機会ともなっている。一例を挙げれば、イギリス縦断の研修「巣鴨ビヨンド・ボーダーズ」でも現地で自分たちで自炊をする。帰国後に保護者から「自分で弁当を作ようになった」とうれしい声を聴くこともあるそうだ。

ホテルに泊まり、名所を見学することでは得られない自ら実体験する機会の数々。堀内校長はそれを「絵葉書の中に入る経験が大事」と表現した。面倒臭いよく至れり尽くせりでは得られない刺激が、絵葉書の奥にたくさん隠れているのだ。

大学合格実績で復活、医学系の高大連携に特色

2026年の進学実績では、東京大学に13人が合格、前年に1人に減らしていただけに話題になった。進路指導部副部長も務める丸谷先生は「今年の学年は緊張感をもって最後までやり切ってくれた。学年全体が中1から英語学習を徹底していたこともよかった」と話し、男子校らしい団体戦が功を奏したと分析する。

彼らはコロナ禍で入学式ができず、オンラインで生徒も教師も手探りの学校生活を始めた学年で、先生方が常に気にかけてきた。例えば、思いっきり身体を動かしてほしいと、体育祭を新国立競技場を借り切って盛大に開催した。オリンピックと同じように大スクリーンに生徒の活躍を映し出し、保護者が見守った。

また、伝統的に医学部志望者が多く、医学部との高大連携に特色がある。附属病院に卒業生が多い東京医科大と2023年に連携協定を結んだ。大学の授業への特別受講生となるほか、大学の教員による出張講義も行われる。東京科学大(医学・歯学)との高大連携プログラムにも参加しており、医学の道を志す生徒が学びを深められる環境が整っている。

巣鴨は「生徒に刺激を与えることが使命」と語る先生たちが多様な学びと体験の機会を準備して待っている学校である。